◆実践紹介◆

ガイダンスカウンセラーのクラスサポートの実践

一授業を受けるスキルを高めるガイダンスカウンセラーの出前授業

寺田 英功

(茨城県つくば市立春日学園義務教育学校副校長)

本実践は、きちんと話を聞く、指示に従う、級友と仲良く交流活動を行う等、授業を受けるスキルや生活態度を養うことを目的としている。幼児から小学校中学年児童が対象で、楽しく体験的なゲームを主とした小プログラム集になっているため、継続指導しやすく学級集団の躾に繋がる。学校生活への適応、社会性の高揚、あたたかい風土の学級づくり等、学級経営の充実や担任支援効果が期待される。

Ⅰ 問題と目的

1. 学級経営上課題となる問題点

- ○集団を構成する子どもに、私語が多い、指示に従わないなどの問題が見られる。
- ○学級の風土として、良いこと悪いことの価値観がきちんと形成されていない。
- ○子どもが担任教師をどう見ているかの問題 (子どもが教師の人間的魅力および,教師役割の魅力 の勢力資源を感じているかどうか)
- ○担任教師への保護者の評価が悪い場合

2. 実践研究の目的

本実践での各プログラムの効果(ねらい)を表1にまとめた。以下、各プログラムの実践の内容の確認の際に参照されたい。

Ⅱ方法

『学習名人になろう』という題材で、特別活動(45分 授業)の出前授業として行う。学級へ指導者として介入し、担任と共に、クラスの子どもたちの様子を確認しながら進めるものである。担任は、個々の様子や集団の様子を観察したり、個別の指導援助をしたりする。授業後、担任がクラスの実態に応じて、必要なプログラム内容を選んで継続指導をしていくことで、個々の子どもや集団をより良く育て伸ばしていくものである。

表1 各指導プログラムの効果とねらい

_											
効果の記号	ゲーム順 内容 ねらい 効果	①集中力	②スイッチー適時繰返し	③注意の仕方	④注意を受けた時の態度	⑤ベクトル	⑥後方整列ー後半繰返し	⑦ひそひそジャンケン	⊗コミュニケーション	⑨ひそひそあいこでポン	⑩ロバ・ロボ
聞	よく聞く										
素	素直さ										
態	良き態度										
集	集中する										
思	思いやり										
マ	マナー										
西村	私語への耐性										
注	注視する										
社	社会性・社交性										
従	従う心,けじめ										
	コミュニケーション										
行	集団行動										
制	自制・自己コントロール										
浄	自浄力										
	-										

1. 本実践の主な理論的背景について

(1) 学校心理学について

学校心理学(石隈, 2004)での, 三段階の心理教育的援助サービスのうち, 一次的心理教育的援助サービス(学級のすべての子どもを対象とした予防・開発的指導)として実施した。

(2) 対人関係ゲームについて

田上(2003)の対人関係ゲームを「ひそひそ声」で行う条件を加味し、関係をつけるゲーム(関係づけ)、他者と心を通わすゲーム(心の交流)、集団活動の楽しさを実感するゲーム(集団活動)の3つを取り入れ実践した。

(3) 教師の力・教師の勢力資源について

河村(2002)の「教師の人間的魅力の勢力資源」を、 子どもが担任に感じるように方向づけることを重視し、 楽しく体験的な学習内容とした。

2. 指導プログラムの順序について

プログラムの順序は, 重要で簡単で, 成功感を集団で 共有しやすいものから組んだ。そして、指導者に瞬時に 集中するプログラムや、突然の指示に従う集団行動のプ ログラムは前半に入れ、45分の授業後半で繰り返し実 施するようにした。これによって集団の変容を観ること ができる。さらに、良くできたら褒め、行動の強化が図 れる。

3. 「学習名人になろう」指導プログラムの実際

各指導プログラムの名称の横に、説明や評価を含めた 所用時間を秒単位で示す(例:1分→60,30秒~1分 半→30—90)。実施期間(H29.5~6)

(1) オリエンテーション 120

本時の目標の説明として、学習名人とは「話をよく聞 く| 「よく見る | 「よく考える | この3つのことができる 人で、先生の指示に従える人であることを説明する。

(2) 集中力ゲーム 90-150

よい姿勢のまま30~60秒黒板に貼った「集中力」の 文字に注視し、私語をしたり動いたりしないで集中した 良い姿勢を維持する。

(3) スイッチゲーム 60-120 適時説明前実施

ひそひそ声でおしゃべりや、お絵かきをしている演技 を行わせ、指導者の「はい、黒板を見て」の合図で、素 早く良い姿勢で黒板の「集中力」の文字に注視する(聞 く姿勢のスイッチを入れる)。

(4) 注意の仕方ロールプレイ 180

授業中のおしゃべりの悪影響を説明し、確認する。そ の上で、おしゃべりは、子ども同士で注意し合えるとよ いことを伝える。表情と心理的に「怒った注意」「普通 の注意 | 「優しい注意 | の3枚の注意の仕方の顔の絵を 順次掲示し、優しい無声注意(サイン)が望ましいこと を確認する。

(5) 注意を受けた時の態度のロールプレイ 180

清掃時にほうきを振り回していた子どもが、ほかの子 どもから注意を受けた想定で、指導者がロールプレイを 行い、子どもたちに考えさせる。

注意する 「○○くん、埃が舞い上がるから、そっと掃いたほうがいいよ」

反応(1) 「ごめん、そうだね。 そっと掃くよ」

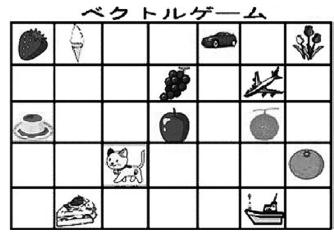
反応(2)

「うるせーよ、お前はさっき 雑巾を振り回してたろうよ」

注意された場合の望ましい態度を確認する。

- ○素直, 誠実な態度の良さ
- ○注意を聞き入れてくれると嬉しい感情
- ▲攻撃的な態度(逆ギレ)への嫌な感情

(6) ベクトルゲーム 120-300



ベクトルゲーム掲示資料 図 1

図1のように、方眼紙の枠の中に、果物や乗り物など の絵を不規則に入れた資料(A2サイズほど)を黒板に 掲示する。指導者が「リンゴからスタートして、上に 2つ、右に1つ……。答えを『どうぞ』」と問題を出す。 子どもは一斉に「車」と答える。指導者の「どうぞ」の 指示の後に一斉に答えさせる。授業と関連づけ、勝手に 答えを言わないように指導する。さらに授業中は、よく 聞きよく見ることで、よく考えることができるので、課 題の解決が容易になることを実感させる。

(7) 後方整列ゲーム 60-120 後半も実施

指導者の「用意、始め」の指示で、自分の席から教室 後方などに、背の順で男女別に素早く並ぶ集団行動を ゲームとして行う。戻りも同様に行う。

譲り合うこと、混まないルートを考えることを助言 し、静粛さや速さ、タイム短縮を承認する。

突然の教師の指示でも素早く整列できるようにする。 緊急時の避難という。万が一の危機への備えになること を全員に理解させておく。

(8) ひそひそひたすらジャンケン 60-120

指導者の「始め」の合図で、席を立ち次から次へと出 会う級友とジャンケンを行い、勝ち数を数えていく対人 関係ゲームを行う。ひそひそ声で行うことを条件に行わ せ、自分の感情や声をコントロールさせる。グループ学 習時はグループ内の級友に聞こえる程度の声で話せばよ いことなどと関連づけて指導する。静粛な実践を褒める。

(9) コミュニケーションゲーム 120-180

多くの級友と「好きな食べ物」「学校での好きな遊び とその理由」などを伝え合うゲームを行う。教師の指示 で開始し、活動はすべてひそひそ声で行う。まず相手に 先に「どうぞ」と言った人が内容を聞き、終わったら相 手の「どうぞ」で自分が話すという手順でマナーよく行 う。男子は女子に……など条件をつけることで、男女間 のコミュニケーションの広がりと、相互理解が深まる。

(10) ひそひそあいこでポン 120-180

ひそひそ声で「あいこでポン」と言いながら、あいこになるまでひたすらあいこジャンケンを繰り返す。ジャンケンでは片方が勝てば、終了するのに比べ、なかなかあいこにならないところにちょっとした楽しい困難さがある。その分、あいこになった瞬間双方の顔に安堵の笑みが浮かぶ。

(11) ロバ・ロボゲーム 120-240

学級では、横に並ぶ2つの机の縦のまとまりを1号車、となりのまとまりを2号車などと班分けをすることが多い。図2(上部の図の4号車)のように「ロバ」と言われた時だけロバの耳の表現として、耳の脇に両手を伸ばす。似た言葉(ロボットの略でロボなど)につられ、うっかり間違えることが楽しいゲームである。

素早く指示を出したり、指導者の顔が向いている方向とは逆のグループに指示したりと難易度を上げていく。

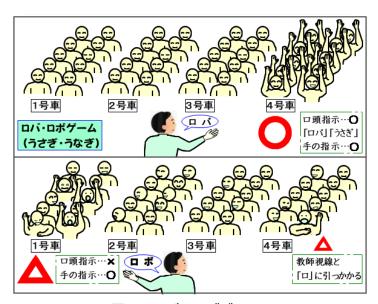


図2 ロバ・ロボゲーム

このゲームでのうっかり間違いを授業中の間違いと関連づけ、間違いへの安心感と周囲の寛容な態度に繋がるよう指導する。

(12) 担任教師のイメージアップの助言

本実践では、子どもの担任教師への評価を高めることも重視している。第三者が語る効果を期待し、担任教師の情報を整理し、子どもの知らない長所やエピソードを 適時子どもたちに伝える。

Ⅲ 結果

出前授業後に、担任教師にアンケート調査を行った結果、概ね良好な結果を得た(表2)。

表2 教師アンケート結果

学習名人で学んだことができているか?									
教師アンケート〔%〕	H29.7.20実施								
対象:1・2学年 やや向上- 担任17人 向上した-	$\overline{}$		(%) 合計						
1 子どもたちの, 教師への集中度は?	18	70	88						
2 子どもたちの、私語への意識は?	12	59	71						
3 教師の指示へのスイッチ状況は?	23	71	94						
4 子どもたちの、姿勢への意識は?	18	53	71						
5 子どもたちの, コミュニケー ション状況は?	35	47	82						
 6 子どもたちの、対人関係は?	30	29	59						